

## 尾崎白浜地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会 議事要旨

記

- 日時 平成 25 年 7 月 23 日（火）19 時 00 分～21 時 00 分
- 場所 旧尾崎小学校体育館
- 次第
  - 1. 釜石市長 野田武則あいさつ
  - 2. 最新の土地利用計画について
    - ・ 地権者連絡会の意見（用地買収の考え方、用地買収の対象地）について説明
    - ・ 土地利用計画について説明
      - 住宅地：漁協と尾崎神社の間に住宅地を造成
      - 避難路：林道・尾崎神社の参道を避難路として活用し、漁協側の道路から住宅地に上がる避難階段を設置
      - ・ 今後のスケジュールについて
  - 3. 災害危険区域の設定について
    - ・ 対象区域の設定方法（津波浸水シミュレーションにより浸水が想定された区域）と規制の対象についての説明
    - ・ 災害危険区域の範囲について（尾崎白浜地区は第一種区域に指定）
  - 4. 住宅再建支援制度について
    - ・ 現在の自力再建支援制度について
    - ・ 国から追加で分配された基金を活用した、新たな支援制度（釜石市単独被災者住宅再建支援事業補助金、釜石産木材活用住宅推進事業）について
  - 5. 私的整理ガイドラインについて
    - ・ 私的整理ガイドラインに適用される借入金の種類と減額・免除のルール、利用するメリットについて説明
  - 6. 意見交換について
    - 盛土をした後、すぐに建築可能になるか。  
→ すぐに建築できるような宅地造成を考えています。
    - 造成地にあたる地権者は、宅地を優先的に使うことができるのか。  
→ 5 区画を対象に考えています。具体的な内容の決め方については、今後、検討したものをお話し下さい。

土地利用計画図の黄色に着色したところが造成地なのか。そこは建築できるのか。

→ 黄色に塗られたところが盛土した住宅地（造成地）となります。住宅地は災害危険区域には入らないので、住宅を建築できます。それより海側が災害危険区域となります。

造成地の海拔はどの程度か、防潮堤の高さはどの程度か。

→ 防潮堤は 6.1m、造成地は 11m となっています。津波シミュレーションを行った結果、浸水しない範囲を造成地として計画しています。

防潮堤を高くしないと、またそれを超える津波が来るのではないか。

→ 釜石湾は湾口防波堤が再整備されるため、防潮堤の高さは 6.1m になっており、釜石の中心部でも尾崎白浜地区と同じ防潮堤の高さです。鵜住居大槌湾は湾口防波堤がないため、14.5m と高い防潮堤になっています。  
どんな高い整備をしたとしても、絶対に安全ということではなく、津波シミュレーション上は 3.11 と同程度の津波が来ても浸水しない計画になっています。あくまで逃げるということを前提に、今回の計画を提示しています。

津波が超えないような防潮堤が必要ではないか。

→ 釜石湾は湾口防波堤が再整備されますが、これまでの津波等を考慮し、決定した高さになっています。

尾崎白浜地区は 18m の津波が来ているところ。6m の防潮堤を作っても仕方ない。無意味なものではないか。もう少し検討してほしい。

→ 防潮堤は、3.11 の津波を防ぐものではありません。3.11 の津波は、1000 年に 1 度の津波であり、これを防ぐことはできません。現在の防潮堤は、2 番目に大きかった明治三陸津波クラスの津波から守れる規模になっています。市の基本としては、「まず逃げる」という考えが前提になります。  
もっと高いところに住宅地を建設することも考えましたが、これまでに多くの地権者と調整を行った結果、今回の場所を候補地として決定しました。盛土 (11m) により、3.11 の津波が防げる高さに造成します。

前のような津波が来たら、間違いなく防潮堤を超えてくる。

→ これまでに多くの計画図をお示ししていますが、尾崎地区は急傾斜地や土石流の警戒区域があるなど制約が多いために、今回の計画になったことをご理解ください。

宅地や防潮堤を早く造ってもらいたい。

→ もし、今回の計画で納得いかなければ、ご意見をいただきたいと思いますが、その分新たに計画作りに時間がかかることがあります。今の計画に合意していただければ、秋頃の着工になります。

万里の長城と言われた田老でも今回のような被害が出た。確実というのは、あってないようなもの。常に逃げなければいけないという気持ちを持つべきなので、この案に賛成です。

- 尾崎白浜地区だけではないが、津波が来たら必ず逃げることを前提としてください。鵜住居の防災センターでも、津波が来ないとしていた場所に建設していたが、被害が出てしまい反省をしています。  
100%の安全はないという前提のもとに、ご決断を頂くかなければならない時点に来ています。

復興住宅は尾崎小学校の場所に作るということだが、体育館も取り壊すのか。

- 体育館は耐震性が保たれている施設であり、避難所としても活用できると考えています。地域からの要望があれば、このまま残すことも検討していきます。

土地を買ったら、スクラムかみへい住宅のプランにすぐ申し込んでいいのか。

- その通りです。